

物質フロー及び物質フロー指標（資源生産性、循環利用率、最終処分量）

1 我が国における物質フロー

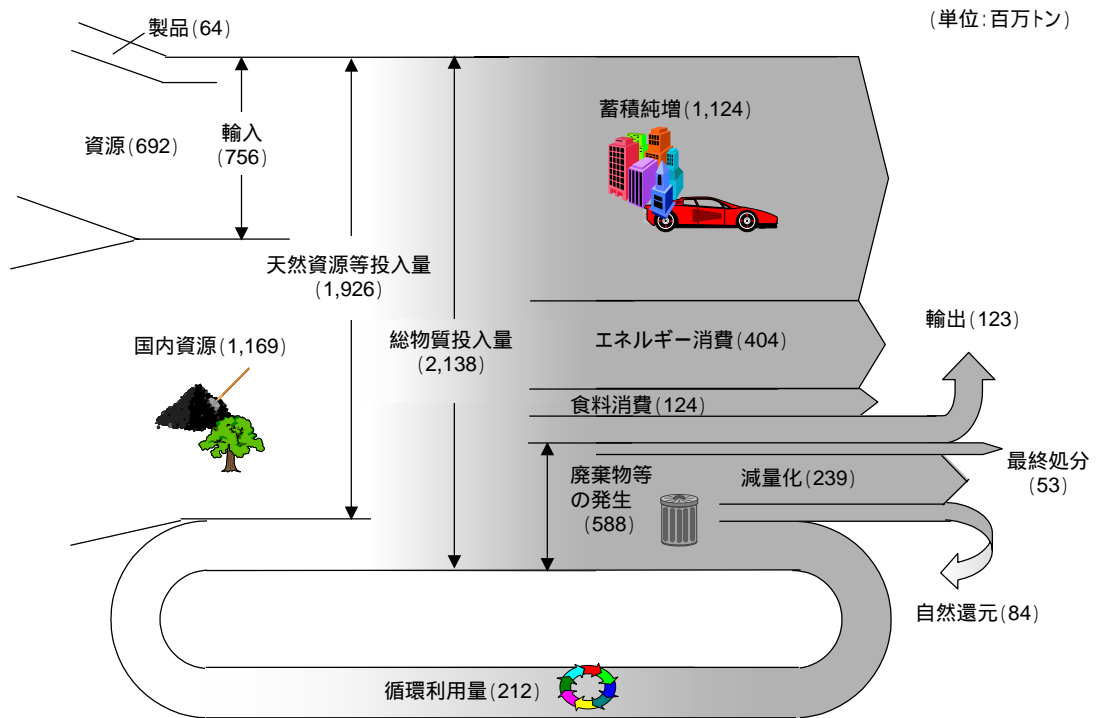


図 1-1 我が国における物質フローの模式図（平成 13 年度）

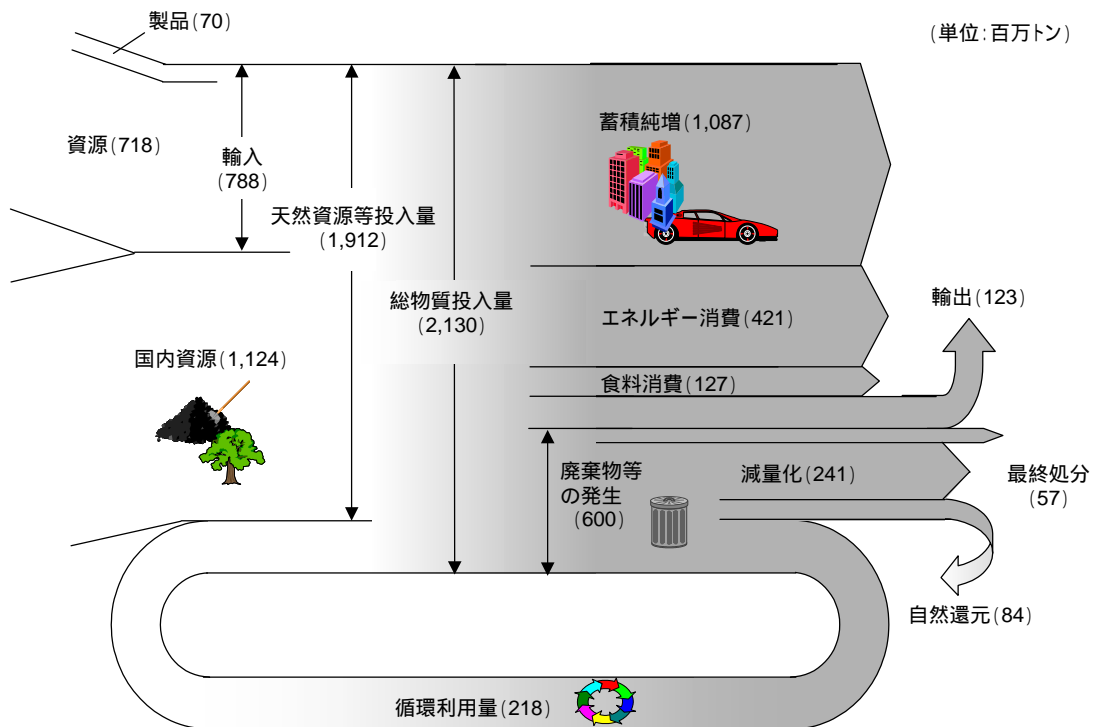


図 1-2 我が国における物質フローの模式図（平成 12 年度）

注) 産出側の総量は、水分の取り込み等があるため総物質投入量より大きくなる。

2 3つの指標の推移

(1) 「入口」：資源生産性（＝GDP／天然資源等投入量）

資源生産性が約 28.1 万円/トン（平成 12 年度）から約 27.5 万円/トン（平成 13 年度）に減少。

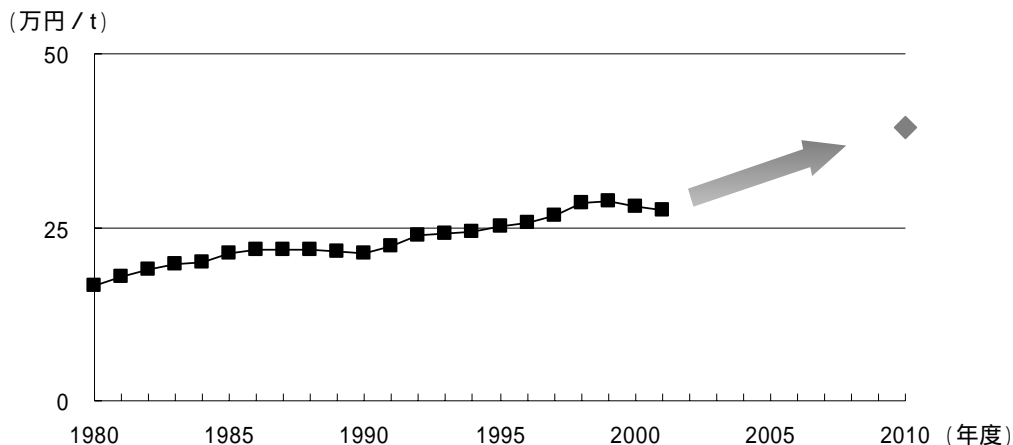


図 2-1 資源生産性の推移

【目標】資源生産性を平成 22 年度において約 39 万円/トンとすることを目標とします（平成 2 年度《約 21 万円/トン》から概ね倍増、平成 12 年度《約 28 万円/トン》から概ね 4 割向上）。
（循環型社会形成推進基本計画より）

(2) 「循環」：循環利用率（＝循環利用量／（循環利用量＋天然資源等投入量））

循環利用率が約 10.2%（平成 12 年度）から約 9.9%（平成 13 年度）に減少。

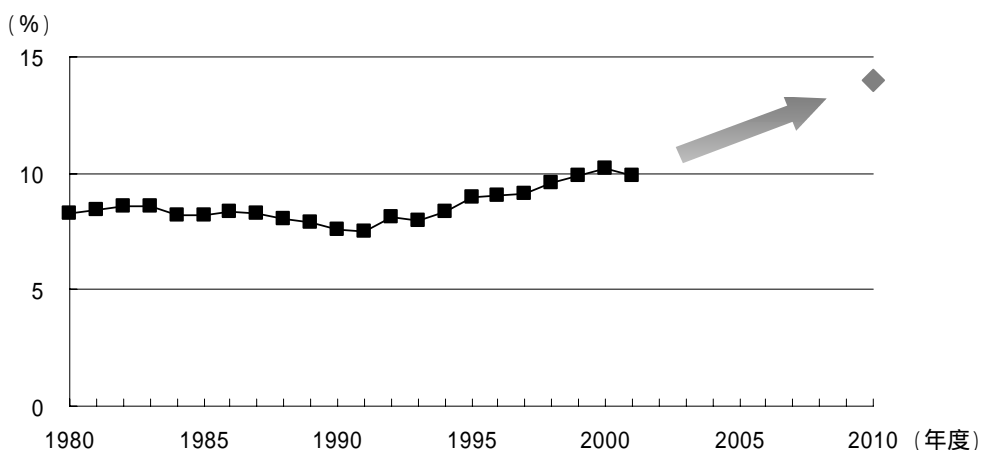


図 2-2 循環利用率の推移

【目標】循環利用率を平成 22 年度において、約 14%とすることを目標とします（平成 2 年度《約 8%》から概ね 8 割向上、平成 12 年度《約 10%》から概ね 4 割向上）。
（循環型社会形成推進基本計画より）

(3) 「出口」：最終処分量

最終処分量が約 57 百万トン（平成 12 年度）から約 53 百万トン（平成 13 年度）に減少。

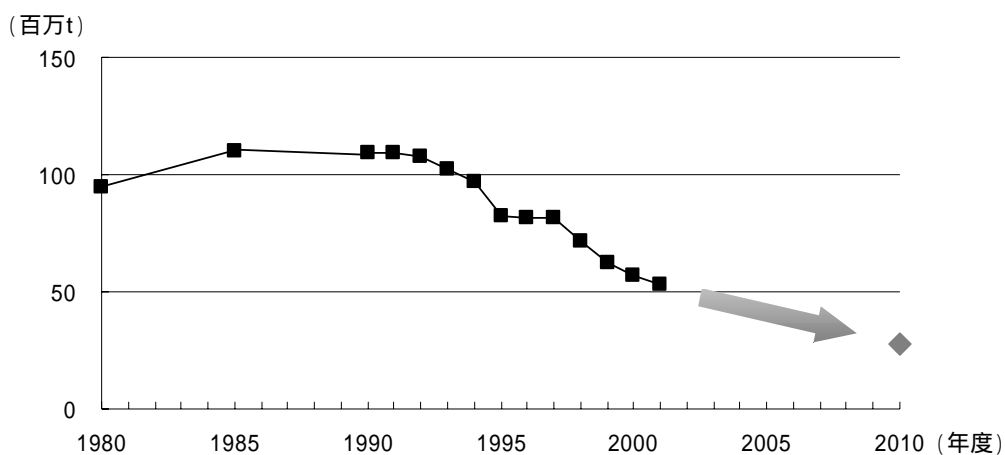


図 2-3 最終処分量の推移

【目標】最終処分量を平成 22 年度において、約 28 百万トンとすることを目標とします（平成 2 年度《約 110 百万トン》から概ね 75% 減、平成 12 年度《約 56 百万トン》から概ね半減）。
（循環型社会形成推進基本計画より）

3 天然資源等投入量の内訳

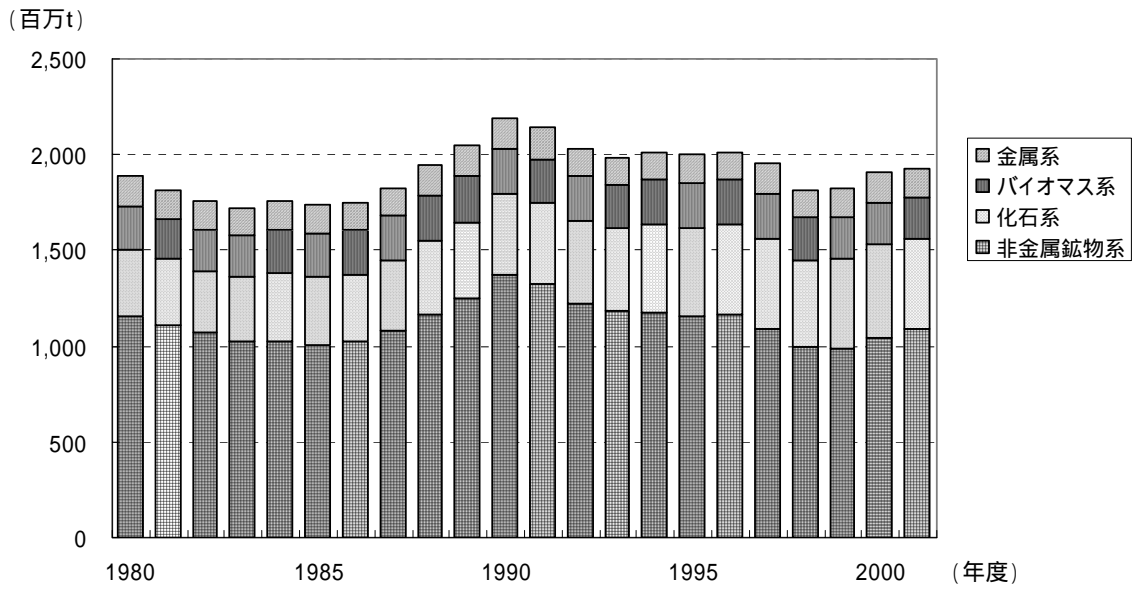


図 3-1 天然資源等投入量の資源種別内訳

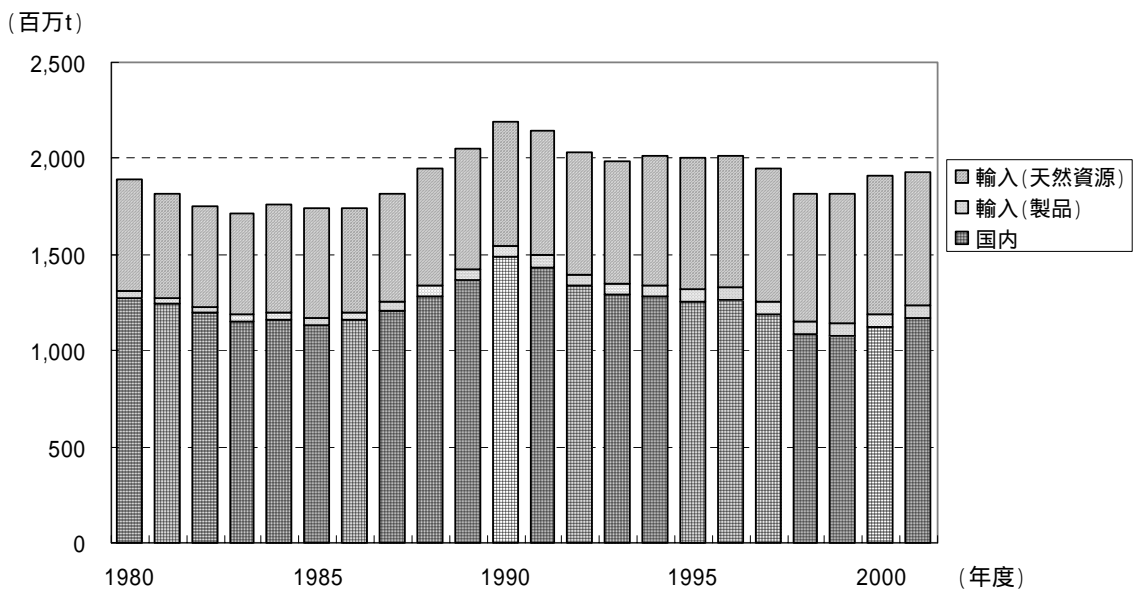


図 3-2 天然資源等投入量の国内採取・輸入(資源・製品)別内訳

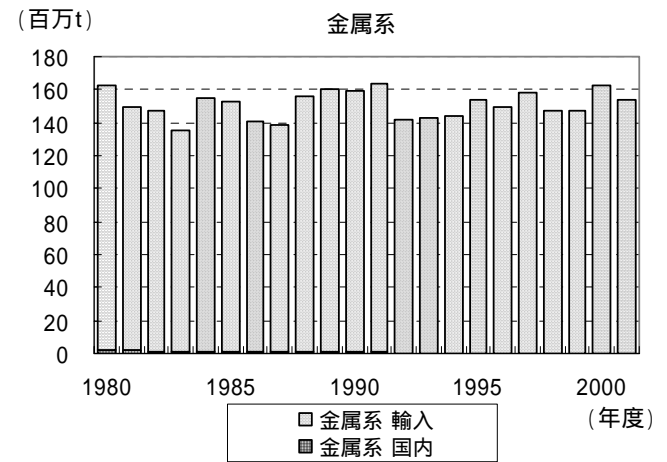
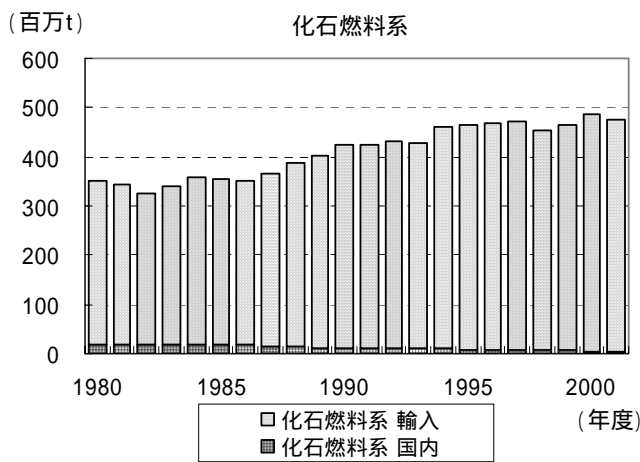
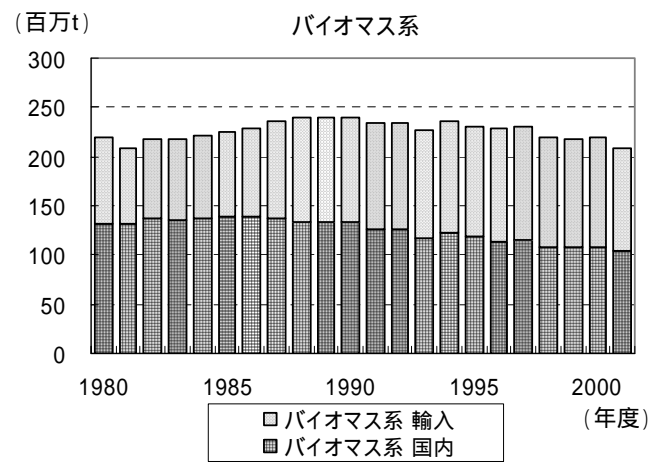
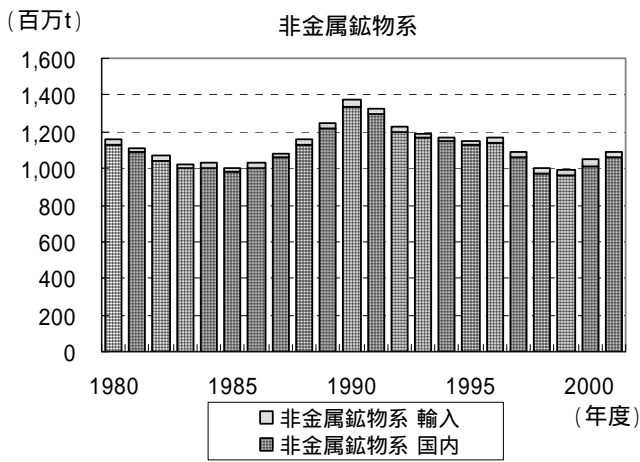


図 3-3 天然資源等投入量の国内採取・輸入（4分類）別内訳

4 その他（GDPの推移、非金属鉱物系の推移、循環利用量の推移）

表 4-1 GDPの推移（単位：十億円）

	平成 12 年度	平成 13 年度	対平成 12 年度 増減量
GDP（93SNA、実質年度）	536,806	530,370	-6,436

（出典）内閣府経済社会総合研究所

表 4-2 天然資源等投入量（非金属鉱物系）の物質別推移（単位：百万トン）

	平成 12 年度	平成 13 年度	対平成 12 年度 増減量
天然資源等投入量	1,912	1,926	14
うち非金属鉱物系	1,046	1,088	42
国内の岩石	525	595	70
その他	521	492	-28

表 4-3 循環利用量の推移（単位：百万トン）

	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	対平成 12 年度 増減量
循環利用量	199.9	218.2	211.7	-6.4
鉄くずの国内銑鉄用消費量 (1)	41.4	43.7	40.6	-3.1
粗鋼生産量	98.0	106.9	102.1	-4.8
鉄くずの輸出量 (2)	3.9	3.1	6.9	3.8
（参考）(1)+(2)	45.3	46.8	47.5	0.7

（出典）鉄くずの国内銑鉄用消費量、粗鋼生産量は経済産業省「鉄鋼・非鉄金属・金属製品統計月報」。鉄くずの輸出量は財務省「通関統計」。